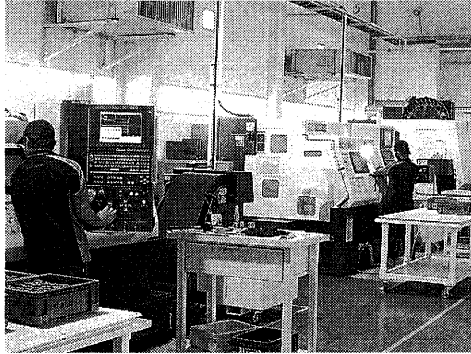


# 三陽機器

# タイで農機製造販売

## 現法設立 需要増対応、国内補う

農業機械製造の三陽機器(岡山県里庄町、寺前公平社長)はタイで農機の製造販売に乗り出した。現地法人を設け、整地などに使う「フロントドーザー」や油圧シリンダーを売り込む。経済発展で兼業農家が増えて農業の省力化ニーズが高まっており、市場性が高いと判断した。2010年には年商10億円を見込み、縮小する国内需要を補いたい考えだ。



ドーザーの需要は大きく、現地工場では現在フル稼働状態が続いている

バンコクの南東にあるチョンブリー県の工業団地に工場を置き、このほど生産を始めた。製造するフロントドーザーはトラクターの前部に装着して整地や開墾に使用する機材で、土を押し出しやす

い構造や着脱の容易さなど、現地の顧客向けに独自仕様で開発したものを製造する。油圧シリンダーは機械の駆動に用いるもので、ドーザーと合わせて供給する。製品はタイでトラクタ

ーの販売を強化しているクボタの販路を通じて供給する。まず年内にドーザー1500台を生産・販売し、10年には生産規模を1万5000〜2万台程度にまで引き上げる考えだ。

当面はクボタのトラクター購入者向けに製品を販売するが、将来は自前で販路を拡大する計画。欧州メーカー製のトラクターに装着できるドーザーを製品化するほか、一般の産業機械向けに油圧シリンダーを単品で販売することも検討している。

現地法人の従業員数は60人。現地で生産したものは現地で販売する。日本への輸出はしないが、今後はベトナムやラオスなど近隣諸国にも製品を供給していきたい考えだ。同社はタイ子会社の売上高が数年内に本体(09

年5月期は22億円)を上回ると見ている。先細りが避けられない国内市場を補完する収益源と位置づけ、業容拡大を急ぐ。

農機の国内市場は農家の減少や耕作面積の縮小などを背景に、今後の成長は期待しにくい状況。一方、アジア諸国は農業の機械化がこれからという段階で、大手農機メーカーも現地での販売を本

格化している。地方の中間進出の動きが今後加速小農機メーカーにもアジしそつだ。